

# 撥音便の考察

永田吉太郎

4019

## — 撥音便の考察 —

### 一

普通に認められてゐる音便の實例に對して、悉くあてはまるやうな定義を下すことはむづかしい。しかし、撥音便といふ一種類に限るときは、次のやうに言ひ表すことができる。

撥音便は撥音（の音節）を生じる音韻變化の總稱である。

これでは、或は廣すぎるかとの疑がある。實例を調べて後に訂正を加へることにしよう。

撥音便の最も簡單な例は次の一群であらう。

|       |        |      |
|-------|--------|------|
| アマリ   | アンマリ   | (餘)  |
| ウハ—マヘ | ウハ—ンマヘ | (上前) |
| シタ—マヘ | シタ—ンマヘ | (下前) |
| ミナ    | ミンナ    | 「皆」  |

|         |          |      |
|---------|----------|------|
| ミナミ     | ミンナミ     | 「南」  |
| マ—ナ     | マ—ンナ     | 「眞名」 |
| マ—ナカ    | マ—ンナカ    | 「眞中」 |
| カナ      | カンナ      | 「鉋」  |
| テ—ン—デーニ | テ—ン—デーニン | 「各自」 |
| ホゴ      | ホシゴ      | 「反故」 |
| マ—グハ    | マ—ンガ     | 「馬鉤」 |
| ジギ      | ジンギ      | 「時儀」 |

これらは、いづれも次に存する鼻腔音が延長したものと見られる。マ行、ナ行、ガ行、いづれも口腔内の一部が閉鎖され、一旦わざ／＼聲を鼻腔に共鳴させるといふやゝ餘分な勞力を要するために、それを確實に發音するためには、時間の延びる傾向を生じるのかも知れない。もし確實さを氣にかけないで、速く發音しようとするときは、鼻腔の共鳴だけが殘されて閉鎖の弛められることが

生じやすい。それについては後に言ふ。なほ、ウハンマへのやうな複合語にあつては、そのンは次のを發音する便宜の上から添へられたものだから、成分はウハとンマへとに分けられなければならない。マグハとマンガとは意味が違ふから、この語源説だけは少し怪しい。續いて、次のやうな一群がある。

|         |          |      |
|---------|----------|------|
| タビ      | タンビ      | 「度」  |
| トビ      | トンビ      | 「鷲」  |
| ヨベ      | ヨンベ      | 「昨夜」 |
| ハベリ     | ハンベリ     | 「侍」  |
| ババ      | バンバ      | 「馬場」 |
| クマ—バチ   | クマ—ンバチ   | 「胡蜂」 |
| ガ—バル    | ガ—ンバル    | 「我張」 |
| カクレ—バウ  | カクレ—ンバウ  | 「隠遊」 |
| サクラ—バウ  | サクラ—ンバウ  | 「櫻實」 |
| クロ—バウ   | クロ—ンバウ   | 「黒人」 |
| オニ—ブクラウ | オニ—ンブクロ  | 「鬼事」 |
| スデ—ノ—コト | スンデ—ノ—コト | 「不斷」 |
| フダン     | フンダン     | 「唯」  |
| タダ      | タンダ      | 「下」  |
| クダリ     | クンダリ     |      |

|                                |          |       |
|--------------------------------|----------|-------|
| メダウ                            | メンダウ     | 「馬道」  |
| ヲ—ドリ                           | ヲ—ンドリ    | 「雄鳥」  |
| メ—ドリ                           | メ—ンドリ    | 「雌鳥」  |
| モドリ(戻?)                        | モンドリ     | 「翻筋斗」 |
| アイタ—ドコロ                        | アイタ—ンドコロ | 「朝所」  |
| サジキ                            | サンジキ     | 「棧敷」  |
| ズ—ズ                            | ズ—ンズ     | 「誦」   |
| ク—ズ                            | ク—ンズ     | 「屈」   |
| コ—ゴシヨ                          | ゴ—ンゴシヨ   | 「小御所」 |
| なほ、ズ—ンバ、ベク—ンバ、ナク—ンバ、ゴトク—ンバ、など。 |          |       |

これらは、いづれも次に有聲閉鎖音を含む。

一體有聲閉鎖音の發音には、一旦口腔内の一部を閉鎖して聲を止めようとするために、屢々鼻腔への通路が開かれて聲がその方へ洩れようとする傾向を生じる。この現象は土佐方言及び東北方言に著しい。土佐方言では、「d」及び「g」の前の音は必ず鼻音化される。程度はあまり強くない。「m」「n」の前の母音も多少その傾向がある。「b」及び「z」の前の母音が鼻音化されないのは注意すべきである。

——服部四郎氏、音聲學協會會報第二三號七頁

東北方言では、諸家の記述を総合すると、バ行、ダ行、ザ行の前の母音は鼻腔音化され、ガ行子音はマ行、ナ行と同じやうに鼻腔音で、それ／＼タ行・カ行などの子音の有聲化したものと區別される。

右の二地方には多少差異があるが、橋本進吉博士によれば、ルドリギンにも同じやうな記述があつて、室町末期の近畿方言とおぼしい國語に於ても、dz gの前の一般の母音及びbの前のa母音などに鼻腔音化の現象の存したことがうかゞはれる。そのために外國人が長崎を、Nagasaki 平戸を Hirado 關白殿を Quambacundono と書くやうな結果を來したのであるといふ。(方言第二卷第一號二・三頁)アイヌ語で通辭を tunchi 罽を tinpa 小袖を kosonte といふやうな現象も、國語に於ける濁音を清音に呼ぶのはアイヌ語の音韻組織によるものであるが、そのもと濁音であつたとおぼしい音の前に鼻腔音を挟むのはやはり借用した國語の音韻現象を忠實に傳へたものといはれる。(金田一教授御講話)なほ、南島方言の歴史的文献にも、似たやうな例がある。(南島方言資料)

中山傳信錄 音韻字海 華夷譯語  
水 関子 民足 民足 ミズ

|   |     |     |     |         |
|---|-----|-----|-----|---------|
| 左 | 分搭里 | 分達里 | 分達里 | フダリ(?)  |
| 舵 | 看失  | 看息  | 看失  | カジ      |
| 兄 | 洗之  | 先牝  | 先札  | セジャ(?)  |
| 女 | 會南姑 | 烏男姑 |     | エナゴ、ヲナゴ |
| 鬚 | 非凡  | 品共  |     | ヒギ      |

即ち、濁音を寫すのに、屢々その前に鼻腔音に終る漢字を用ゐてゐる。これは諺文を以て寫した海東諸國紀附録語音翻譯に於ても見られるところで、その例は印刷の都合から省くが、これらも或は古くこの方面にも濁音の前に鼻腔音を生じる現象があつたのではないかを思はしめる。

こゝで注意すべきは、東北方言の例では、鼻腔音は前の母音から次の閉鎖音へ移る間のわたりとして存し、前の母音とは本來離して考へられるといふことだ。(金田一教授御講話、音聲の研究第五輯三七頁參照)そこで、コトダは Kodonda のはずであり、その n が o を同化して鼻腔音化母音を造るのは二次的に起る共時的音韻變化であると見ていゝ。音韻論としては、かういふわたりの鼻腔音は後の閉鎖音と結びつけて考へる必要がある。だからこそ、語頭に立つときは、ンダッカラ、ンダモンのやうにも發音される。

(1) 雨降ら(なぐで)ねエで困る

(9) 雨ふらねエでことあんめエい

(16) 雨などふらねエでちや

(1) のネエデのデは (9) (16) のデより鼻音を帯びて居て意義も違ふ。—— 莊内語及語釋九—— 一頁

こエでも一方は ne であり、一方は ne である。ne の方はテの子音が前後の母音に同化されて有聲化したと見るべきものだから、本来の濁音ではない。

右のやうな事情で有聲閉鎖音の前に存するわたりとしての鼻腔音は、以前の國語にはもつと廣く諸方言に亘つて存在したものであらう、土佐方言がガ行子音を口腔音化し、又バ行・ザ行の前の鼻腔音を失つたのは、後に生じた方言的變化と考へられなければならない。ザ行子音の古い形は多分東北・關東に於て觀るやうな dz であつてある方言に於てはヂ・ヅの音韻變化と平行してザ行子音が z に移るやうな現象を來したものとすれば、古い形に於てザ行子音の前に鼻腔音が挟まれたことも亦當然といはなければならない。

有聲閉鎖音の前のわたり鼻腔音が語彙的に特に發達するとき、前に舉げたやうな撥音便を生じるに至る。クンズのやうな形が、直接にはクズのやうに濁音化した形

から出たと見なければならぬ理由も、既に自ら明かであらう。鼻腔音の前後の母音は同化によつて多少鼻腔音化されやすい。これは音聲學的な現象である。服部氏が mn の前でも鼻腔音化の傾向があるといはれたのは、或は mn が他の有聲閉鎖音と同列に扱はれるといふ音韻論的な意義を暗示するものかも知れない。そこにもわたりとして鼻腔音が挟まれ、それがあつた語彙に於て特に著しくなるときは、やはり撥音便を生じることとなるのは、初めの例によつても明かである。mn なども有聲音でしかも閉鎖音だから、一般に次のことがいはれる。

撥音の添加は有聲閉鎖音の前に生じる。

## 二

撥音便の第三の例は、次のやうな一群である。

|                                            |                                            |       |
|--------------------------------------------|--------------------------------------------|-------|
| オホミ <small>ー</small> タカラ                   | オホ <small>ン</small> <small>ー</small> タカラ   | (大御寶) |
| オホミ <small>ー</small> ミ                     | オシ <small>ー</small> ミ                      | (御身)  |
| ヲミナ                                        | ヲシナ                                        | (女)   |
| フミ <small>ー</small> ヤ                      | フシ <small>ー</small> ヤ                      | (文屋)  |
| フミ <small>ー</small> ノ <small>ー</small> ツカサ | フシ <small>ー</small> ノ <small>ー</small> ツカサ | (書司)  |
| カミ <small>ー</small> ノ <small>ー</small> ツカサ | カン <small>ー</small> ノ <small>ー</small> ツカサ | (長官)  |
| コ <small>ー</small> ミ <small>ヅ</small>      | コ <small>ー</small> ン <small>ヅ</small>      | (濃漿)  |



|           |           |       |
|-----------|-----------|-------|
| フミ—ソル     | フシ—ゾル     | (蹈反)  |
| フミ—キル     | フシ—ギル     | (蹈切)  |
| アマミ—ス     | アマシ—ズ     | 「甘」   |
| オモミ—ス     | オモン—ズ     | 「重」   |
| ウトミ—ス     | ウトシ—ズ     | 「疎」   |
| カロミ—ス     | カロン—ズ     | 「輕」   |
| ヤスミ—ス     | ヤスシ—ズ     | 「安」   |
| ナミタ       | ナンダ       | 「涙」   |
| ミ—ヤスミ—トコロ |           |       |
| キミ—タチ     | ミ—ヤスシ—ドコロ | (御息所) |
| カミ—タチ—ベ   | キン—ダチ     | (公達)  |
| カミ—ヘ      | カン—ダチ—ベ   | (上達部) |
| カミ—フクロ    | カン—ベ      | (神戶)  |
| カミ—サシ     | カン—ブクロ    | (紙袋)  |
| ネモコロ      | カン—ザシ     | 「簪」   |
| ヤム—コト—ナ—シ | ネンゴロ      | 「懇」   |
| ヒ—ムカシ     | ヤン—ゴト—ナ—シ |       |
| ナ—ムチ      | ヒ—ンガシ     | 「東」   |
| カムカフ      | ナ—ンデ      | 「汝」   |
| エニス       | カンガフ      | 「考」   |
|           | エンジュ      | 「槐」   |

|          |          |      |
|----------|----------|------|
| ハニサフ     | ハンザフ     | (半挿) |
| オホ—ニハ    | オホ—ンベ    | (大贅) |
| タニハ      | タンバ      | (丹波) |
| カニハ      | カンバ      | 「樺」  |
| テ—ニ—テ—ニ  | テ—ン—デ—ニ  | 「各自」 |
| ナニ—デフ    | ナン—デフ    |      |
| ナニ—ト     | ナン—ド     | 「等」  |
| シニ—デ     | シン—デ     | 「死」  |
| ソラ—ニ—ス   | ソラ—ン—ズ   | 「語」  |
| サキ—ニ—ス   | サキ—ン—ズ   | 「先」  |
| サ—ニ—サウツフ | サ—ン—ザウラフ | (然候) |
| トキ—ニ—ハ   | トキ—ン—バ   |      |
| ナカ—ニ—ツキ  | ナカ—ン—ヅク  | 「就中」 |
| チヌ—タヒ    | チン—ダヒ    | (黒鯛) |
| ワラ—グツ    | ワラ—ンヅ    | 「草履」 |
| カ—グハシ    | カ—ンバシ    | 「馨」  |

この中にはもと／＼連濁を生じてゐたものもあらうが、  
 ンに同化されて有聲化したものも甚だ多いはずである。  
 中には、ナミタが音便によつてナンダの形を生じ、再び  
 もとのミ音が思ひかへされてナミダといふ折衷形を生じ  
 たといふやうな例もあらう。

右のなかまからは次のやうなことが考へられる。  
鼻腔音を含む音節は撥音に轉じることがある。

その撥音に轉じる音節の母音は i 又は u の場合が最も多く、これは狭い母音で失はれやすいためであるが、そのほかのどの母音でも撥音便を生じないとはきまつてゐない。方言の例を集めれば一層範圍が廣くなる。

### 三

撥音便の例には又次のやうなものもある。

ウマーウマート マーンマート

ヌキーイヅ ヌキーンヅ

フウ／＼ズ フン／＼ズ

〔抽、擢〕

〔封〕

これは次の有聲閉鎖音のわたりとして生じた鼻腔音が、前の母音を同化してそれを撥音に變へてしまつたので唯母音だけの場合に限らず子音を伴ふ場合にも例を見る。

オモヒーミル オモンミル

オヒーマクル オンマクル

ワラハーベ ワランベ

カホーバセ カンバセ

ヨリードコロナーシ

ヨンドコロナーシ

ヲハリヌ

ヲハンヌ

〔惟〕

〔追掩〕

〔童〕

〔顔〕

〔不得已〕

〔畢〕

ナリーナムトース ナンナントース 「垂」  
サリーヌル サンヌル 「去」  
カニーモリーノカミ

カモンノカミ (掃部頭)

クダリーノ クダンノ (件)

ノコリーノ ノコンノ (殘)

サカリニ サカンニ (盛)

カリナ カンナ (假名)

アルナリ アンナリ

アルベキ アンベキ

ナルメリ ナンメリ

ヨルノオトド ヨンノオトド (夜御殿)

ツキーザク ツンザク (孽)

ハ行子音・ラ行子音は極めて脱落しやすく、ツキサクだけは異例であるが、キがイ音便を生じ、サが連濁でザとなつたものの前に撥音便を生じたと考へればいい。

オモヒハカル オモンバカル 「慮」

これも亦異例である。オモンミルの類推かも知れない。それでなければ、撥音を生じる位置に続く音節はもとバだつたはずなのであつて、撥音便を生じて後にバに移つたとすれば、これも前の例と同じ原理に基いてゐることになる。

(未完)

# 撥音便の考察

永田吉太郎

## 四

撥音便の最も複雑なものは次のやうな例であらう。

|       |       |      |
|-------|-------|------|
| ヨビ―テ  | ヨン―デ  | 「喚」  |
| クラ―ビト | クラ―ンド | 「藏人」 |
| アキ―ビト | アキ―ンド | 「商人」 |
| ノビ―キ  | ノン―キ  | 「暢氣」 |
| ホト―ボト | ホト―ンド | 「殆」  |
| カヂ―トリ | カンド―リ | 「輯取」 |

これはかう説明する。bの前には例のわたりとしてmの挿入があつたはずである。それが多分一旦はヨンビテのやうな撥音の意識を發達させ、やがて次の音節を鼻腔音化して撥音便を完成し、さらにその後の無聲音をも同化して有聲化させるに至つたのであらう。ノンキの語源説は少し怪しい。ホトンドの語源はすぐ前の形としてホト

ボトのやうに有聲閉鎖音をもつ形を想像するのでなければ撥音便の由來は説明されない。

オビ―モノ      オン―モノ      「珮」

もこゝへ竝ぶ例である。但し、有聲閉鎖音を含む音節では、その前にわたりとしてmをもつほか、その後にもmに接してゐるために同化作用は多分相方からはたらく。以上の例では、撥音便の生じるのは、鼻腔音を含む音節か、又は有聲閉鎖音の前に限られる。ところが、有聲閉鎖音の前に生じる撥音便は既に存してゐた鼻腔音の發達したものであることが認められれば、次のやうに纏めることもできる。

撥音便の生じるのは既に鼻腔音の存する場合に限る。

## 五

一見右の原則に背くものがある。

トヒーヤ

トニーヤ

(間屋)

は鼻腔音がなくつて撥音便を生じてゐるとはいへないのか。思ふに、こゝには多分別の原理がはたらいたのである。コンヤ(紺屋)、フトンヤ(蒲團屋)、ウドンヤ(饅頭屋)といふやうな形の類推から生じたのかも知れない。しからば、純粹の音韻變化ではない。従つて、撥音便ではない。

イウレイ

ユレーン

「幽霊」

サウレイ

ソーレン

(葬禮)

イウレイの次に助詞ガ・ノ・ニのやうな鼻腔音が來たとき、同化されてイガンに轉じることが、既に見た例にもあるところで、もとより撥音便の例になる。しかし、それからひいてすべての場合にユレーンと呼ぶやうになつたとすれば、それは類推の原理によるもので、既に音韻變化の域を越え、即ち撥音便の中に含める必要はない。

ハンベイ

ハンベン

(半平)

フンドウ

フンドン

(分銅)

も前の例に似てゐるが、實は少し違ふ。この語彙では既に前に撥音ンがあるために、間接同化によつて撥音が加へられたのかも知れない。とはいつても、確實に證明さ

れるわけでもないから、これも撥音便からは除いて差支ないであらう。

さうすると、撥音便とは次のやうなものを指すことに定むべきである。

有聲閉鎖音を含む音節又はその直前の音節の脱落の代償として、又は有聲閉鎖音の前に添加して、撥音を生じる音韻變化を撥音便といふ。

因みに、有聲閉鎖音の前に常にわたりとして鼻腔音を含むやうなときは、音韻體系そのものであつて、未だ音韻變化を生じたとはいへないから、勿論撥音便とはいへないはずである。

## 六

有聲閉鎖音の前にわたりとして常に鼻腔音を挟むといふ音韻現象の存する場合には、別に撥音として存在してゐたはずの音も、その音韻體系の中に統一されてわたりの鼻腔音に轉じ、屢々その姿を失ふに至ることがありうるだらう。例へば、

スンバク

スバク

「寸白蟲」

ネンブツ

ネブツ

(念佛)

コンブ

コブ

「昆布」

もつとも、前の母音と融合して、つひに鼻腔の共鳴を失ふに至る場合もある。

|         |       |       |
|---------|-------|-------|
| ナンデン    | ナデン   | (南殿)  |
| ウンドン    | ウドン   | (饅飩)  |
| ケンネン    | ケネン   | (懸念)  |
| ビンーナーシ  | ビーナーシ | (便無)  |
| モンジ     | モジ    | (文字)  |
| ゲンザン    | ゲザン   | (見參)  |
| シンゾク    | シゾク   | (親族)  |
| シーソーンズ  | シーソーズ | (爲損)  |
| エンガ     | エガ    | (垣下)  |
| エンレイーサウ | エレーサウ | (延齡草) |
| ホンイ     | ホイ    | (本意)  |
| セチブン    | セチブ   | (節分)  |
| テンケ     | チケ    | (天氣)  |
| ケンソウ    | ケソウ   | (顯證)  |
| ハハーゴゼン  | ハハーゴゼ | (母御前) |
| ヒメーゴゼン  | ヒメーゴゼ | (姫御前) |

そこで、撥音便を生じた語彙にあつても、屢々その撥音を失つてしまつた例が見出される。

|        |       |      |
|--------|-------|------|
| アミームシロ | アームシロ | (編薙) |
|--------|-------|------|

|            |          |       |
|------------|----------|-------|
| フミーマヤ      | フーヤ      | (文屋)  |
| オヒーニーナ     | オヒーナル    |       |
| カニーモリーノーカミ |          |       |
| クニーノーウチ    | カーモンノーカミ | (掃部頭) |
| ナニーゾ       | クースチ     | (國中)  |
|            | ナニーゾ     | (謎)   |
| アミームシロ     | アージロ     | (網代)  |
| ユミータケ      | ユーダケ     | (弓丈)  |
| ユミーツエ      | ユーツエ     | (弓杖)  |
| ユミーツル      | ユーヅル     | (弓弦)  |
| ユミーツカ      | ユーツカ     | (弓束)  |
| ユミニーハ      | ユーバ      | (弓場)  |
| フミーマヒト     | フービト     | (史)   |
| フミーマハコ     | フーバコ     | (文箱)  |
| フミーマデ      | フーデ      | (筆)   |
| フミーマイタ     | フーダ      | (札)   |
| フミーマヒツ     | スービツ     | (爐)   |
| フミーマスリ     | スーズリ     | (硯)   |
| フミーマスミトコロ  | ミーマスードコロ | (御息所) |
| フミーマヒト     | フスービト    | (盜)   |

|            |        |        |
|------------|--------|--------|
| タマフ        | タプ     | 「賜、食」  |
| シモ—ツ—エ     | シー—ツ—エ | 「下枝」   |
| アム—ツチ      | アー—ツチ  | 「射塚」   |
| ノム—ト       | ノ—ド    | 「喉」    |
| ソ—ムカヒ      | ソ—ガヒ   | 「背向」   |
| ヒ—ムカシ      | ヒ—ガシ   | 「東」    |
| ニテ         | デ      | 「争」    |
| イカ—ニテ      | イカ—デ   | 「不知」   |
| シラ—ニテ      | シラ—デ   |        |
| ニ—コソ—アル—ナレ | ゴザン—ナレ |        |
| ハニシ        | ハジ     | 「黄櫨」   |
| ハニ—シ       | ハ—ジ    | 「土師」   |
| ハニサフ       | ハザフ    | 「半挿」   |
| ダニ—モ       | ダモ     |        |
| ナニ—テフ      | ナ—デフ   |        |
| ナニ—ト       | ナ—ド    | 「何故、等」 |
| ナニ—トテ      | ナ—ドテ   | 「何故」   |
| カニハ        | カバ     | 「樺」    |
| クニ—ス       | ク—ズ    | 「國栖」   |
| クニ—カ       | ク—ガ    | 「陸」    |
| イ—モノ—シ     | イト—モ—ジ | 「鑄工」   |

|           |          |       |
|-----------|----------|-------|
| アル—ヌシ     | アル—ジ     | 「主」   |
| ムラ—ヌシ(?)  | ムラ—ジ     | 「連」   |
| タギ—フサ     | ター—ブサ    | 「髻」   |
| カガフル      | カブル      | 「被」   |
| ○         |          |       |
| ツカヘ—マツル   | ツカ—マツル   | 「奉仕」  |
| ワラハ—ベ     | ワラ—ベ     | 「童」   |
| トノ—モリ—ヅカサ | トノ—モ—ヅカサ | 「主殿寮」 |
| カリ—ナ      | カー—ナ     | 「假名」  |
| マカリ—イツ    | マカー—ヅ    | 「罷」   |
| ヲレガム      | ヲガム      | 「拜」   |
| アル—ナリ     | アー—ナリ    |       |
| アル—ベキ     | アー—ベイ    |       |
| ナル—メリ     | ナー—メリ    |       |
| カヘル—デ     | カヘ—デ     | 「械」   |

次の子音を有聲化してゐる場合には、撥音便の存したことが殊に確であらう。マドコロ(政所)などもこゝへ竝べていゝものかと思はれるが、語源が明かでない。

さらに、撥音がウ音便に轉じることがある。

|                                                                    |        |      |
|--------------------------------------------------------------------|--------|------|
| ハシクワ                                                               | ハシクワ   | 〔半靴〕 |
| ハングワン                                                              | ハウグワン  | 〔判官〕 |
| チャント(ード)                                                           | チャウード  | 〔宛然〕 |
| リンゴウ                                                               | リウゴウ   | 〔林檎〕 |
| ゴランーズ                                                              | ゴラウーズ  | 〔御覽〕 |
| コンーヤ                                                               | コウーヤ   | 〔紺屋〕 |
| コンーズ                                                               | コウーズ   | 〔困〕  |
| カンジ                                                                | カウジ    | 〔柑子〕 |
| カンジ                                                                | カウジ    | 〔勘事〕 |
| 從つて、撥音便を生じたものがウ音便に移ることもあ<br>るわけで、未來・推量を表すウ語尾などはその著しい例<br>だが、その他にも、 |        |      |
| メカ(メガ)                                                             | メウガ    | 〔茗荷〕 |
| ヲミナ                                                                | ヲウナ    | 〔女〕  |
| テミツ                                                                | テウツ    | 〔手水〕 |
| クサミツ                                                               | クサウツ   | 〔石油〕 |
| カミノートノ                                                             | カウノートノ | 〔督殿〕 |
| カミノーキミ                                                             | カウノーキミ | 〔長官〕 |
| サマーニ                                                               | サウニ    |      |

|        |        |       |
|--------|--------|-------|
| カムーナギ  | カウーナギ  | 〔巫〕   |
| カムースシ  | カウースシ  | 〔祠官〕  |
| タカームナ  | タカウナ   | 〔符〕   |
| タタウーカミ | タタウーガミ | 〔疊紙〕  |
| ノミエテ   | ノウエデ   | 〔飲〕   |
| カミヘ    | カウヘ    | 〔首〕   |
| カミソリ   | カウソリ   | 〔髮剃〕  |
| カミカキ   | カウガイ   | 〔筭〕   |
| カミカミシ  | カウガウシ  |       |
| コーミチ   | コウヂ    | 〔徑〕   |
| タマフ    | タウブ    | 〔賜、食〕 |
| ヤムコトナシ | ヤウゴトナシ |       |
| タムケ    | タウゲ    | 〔嶺〕   |
| カムチ    | カウヂ    | 〔麴〕   |
| カガフリ   | カウブリ   | 〔冠〕   |
| カガフル   | カウブル   | 〔被〕   |
| ワラグツ   | ワラウツ   | 〔草履〕  |
| カグハシ   | カウバシ   | 〔磬〕   |
| ツカヘマツル | ツカウマツル | 〔奉仕〕  |

|        |        |       |
|--------|--------|-------|
| トリイデ   | トウデ    | 「取出」  |
| ○      |        |       |
| オチービト  | オチーウド  | (落人)  |
| カタービト  | カターウド  | 「比黨」  |
| カカリービト | カカリーウド | 「食客」  |
| マラービト  | マラーウド  | 「客」   |
| クラービト  | クラーウド  | (藏人)  |
| メシービト  | メシーウド  | (召人)  |
| ナカービト  | ナカーウド  | 「媒」   |
| キナカービト | キナカーウド | 「田舎人」 |
| フリービツ  | フリーウヅ  | (折櫃)  |

これが悉くもとの音節から直ちにウ音に轉じたと見ることはどうしても無理である。殊に次の子音を有聲化してゐる場合は一旦撥音便を生じたするのが最も自然な見方でなければならない。

(昭和九年六月)